

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3544600392		
法人名	社会福祉法人 青藍会		
事業所名	ハートハウス新山口グループホーム		
所在地	山口県山口市小郡緑町3-33		
自己評価作成日	平成24年12月29日	評価結果市町受理日	平成25年4月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年1月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物の構造も職員と入居者も、パツと明るく賑やかなグループホームです。移転して約半年で、入居者も職員も入れ替わり、新鮮な気持ちで、1ユニット単独型の良い点を活かして、より小規模で個別的なケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保について法人の研修で学ばれたり、毎朝の接遇トレーニングで日々学んでおられ、利用者を一人の人として尊び、敬意を払って接することを心がけられ、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底してケアをしておられます。利用者がクリスマスリースや正月飾り、しめ縄などを職員と一緒に作られたり、プランターの花を育てたり、テレビ視聴や体操、ゲーム、歌、散歩、買い物を楽しまれるなど、活躍できる場面を多く作られて、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように一人ひとりに合わせた支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは、日々の暮らしを安全に、安心して、そして心豊かに送ることができるよう支援しています」以前からの理念ですが、この業界内の流行の言葉の羅列ではなく、基本的に大切なことが示され良いと思います。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示して、共有し、実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会にも加入しました。今後清掃などの地区行事などにも参加する予定です。 表の道路が小学生のマラソンコースなので外に出て応援しています。	自治会に加入している。ボランティア(ギター演奏、腹話術など)の来訪があり交流している。近くの小学校のマラソン(年1回)の応援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事の把握 ・地域との関わりの検討
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	青藍会グループとして、寸劇などを通じて、啓発活動に努めています。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	カンファレンスにも職員一人ひとり多くの意見が出し、現在追加アセスメントにも取り組んでいます。	管理者が自己評価表を作成し、職員は閲覧している。評価項目や評価の意義の理解を全職員がしているとは言えない。評価を活かすまでには至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員での評価の取り組み ・評価の意義や評価項目の理解 ・評価を活かす取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の会議で、利用者のいない場所で、話をする機会がほしいとの意見をいただき、部屋を変えてお話しする機会を確保する予定です。	民生委員(2名)、家族、利用者、地域包括支援センター職員などの参加で、7月開設後、会議を3回実施して。事業所だよりで、利用者の日頃の様子を伝えたり、活動や事業所の取り組み状況の報告をして意見交換をしている。出た意見をサービス向上に活かすように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域メンバーの拡大

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市、包括支援センターとも、特に小郡に支所があるため、地域密着で良好な関係であると思います。	市の担当課や支所に出向いて情報交換や相談をし助言を得るなど協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員は運営推進会議に参加しており、情報交換している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者権利擁護として拘束ゼロを継続しています。	身体拘束について、職員は年1回の法人研修で学び、理解しており、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。スピーチロックについては、先輩職員がその都度注意している。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上。 青藍会グループの研修会も実施。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同上。 青藍会グループの研修会も実施。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアプランも含め、懇切丁寧な説明を行っています。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応規定を設け、解決責任者や第三者委員も明示しています。	電話や面会時、運営推進会議時などで家族から意見や要望を聞き、申し送りノートに記録して、全職員で共有して、反映させている。苦情は出ていない。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なグループホームの会議や、青藍会グループのシステムを使用して、その機会を設けています。移転後約半年の現在は、より良いケアを目指して、活発に提案をいただいています。	月1回の業務改善ミーティングで全職員から意見や提案を聞く機会を設けている。行事企画書での提案や職員の休憩時間の改善など運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	青藍会グループのヘルパー養成講座の受講料補助、資格取得の受験料補助、常勤登用条件、自己活性化のいわゆる賞金、賞与の算定方法も明示し、努力の結果が得られるよう体制整備している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の研修会、ベスト返還式、上記のとおりスキルアップ支援、業務習熟度自己点検・評価など、職員養成に努めている。	外部研修の情報を職員に伝え、段階や希望に応じて、受講の機会を勤務の一環として提供し、1名の参加がある。法人研修(月5回)に職員が交代で必ず1回は参加できるように支援している。内部研修はミーティングの中で訪問看護師を講師として2回実施している。新人職員には法人での研修終了後、先輩職員がついて指導し、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口市サービス提供事業者連絡協議会に加入し、研修や会合に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	きっかけづくりアセスメントシートで、初期段階の関係形成を行い、現在私の基本情報シートで、よりその人の理解と情報の共有を図っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・契約の際、そして、上記アセスメントシートに記入する機会、要望を聴取し、関係づくりに努め、家族交流会を定期的に行い継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所当初は、暫定的なプランの策定後、アセスメントやカンファレンスで軽微変更をしていくが、基本的に初期段階では、ショートレンジとして大幅な変更も想定している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩から沢山学んでおります。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会や運営推進会議にも積極的な参加を呼びかけて一緒に考え取り組むようにしています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在私の基本情報シートで、よりその人の理解と情報の共有を図り取り組んでいく予定です。	友人や知人、親戚の人の来訪がある他、行きつけの美容院の利用や馴染みの店での買い物など支援してる。家族の協力を得て外出や外食、墓参りなど関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には、職員が媒介となったり、壁となったり、臨機応変に関係を調整しています。カンファレンスやプランにも少しずつ反映させています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	7月まで在籍していた入居者は、青藍会グループのヘルパーを中心に在宅サービスを提供しており、当時のグループホームの職員がヘルパーステーションに異動し、変わらずお付き合いいただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	きっかけづくりアセスメントシートで、初期段階の関係形成を行い、現在私の基本情報シートで、よりその人の理解と情報の共有を図っている。	「きっかけづくりアセスメントシート」や「私の基本情報シート」など事業所独自のシートを活用して把握する他、日常の関わりの中での言葉や行動、様子などを経過記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	きっかけづくりアセスメントシートで、初期段階の関係形成を行い、現在私の基本情報シートで、よりその人の理解と情報の共有を図っている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン更新の際には、3表の検討も行うように努めています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的にはカンファレンスでの話し合いによるのですが、介護業務による欠席者が発生しますので、ネットカルテシステムを使用して、事前に意見を表明し欠席者の意見も反映できるようにしています。	月1回の業務ミーティングでサービス担当者会議を実施し、把握している利用者の状態や思い、家族の意向、主治医の意見を参考に話し合い介護計画を作成している。アセスメントを実施し、カンファレンスで話し合い、6ヶ月毎の見直しや、利用者の状態の変化に応じて計画の見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プロセスレコードの記載方法の改善と共有を行いました。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院中の方の洗濯の支援など、柔軟に対応しています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に公園やショッピングモールなど恵まれた環境を活かして、ちょっと遠出の散歩など、介護の現場は地域全体としています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	小郡第一病院の眼科への定期受診付き添いのご希望にお応えしています。	協力医療機関をかかりつけ医としており、受診の支援をしている。2週間に1回の往診や緊急時の対応をしている。他科受診は家族の協力を得て支援するなど適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、利用者の健康管理にとどまらず、職員への医療上の注意事項の助言や、感染予防の研修なども協力を得ています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時には調整会議に出席し、情報を共有し、ご本人、家族とも安心して退院していただけるよう、努めています。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、看取りの指針の他、事前指定書により、説明していますが、実際のところその時々で、ご家族のお考えも揺れますので、その時点で最新の情報の共有と、同意に努めています。	規約時に事業所の指針について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族、医師、職員、関係者等で話し合い、移設も含めて方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	毎月の会議で、ヒヤリハット報告を活用し、事故防止、情報の共有に努めています。	ヒヤリはっと、事故報告書に記録し、その場にいる職員で対応策を話し合い、月1回のミーティングで検討して一人ひとりの事故防止に努めている。AEDの使用方法や看護師指導によるノロウイルス対策についてなど学んでいるが、全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、風水害時の対応についても確認しています。	年1回、消防署の協力を得て昼夜想定の方災時避難訓練を実施している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性に合わせた言葉かけや対応を心掛けています。	法人の研修で学ぶ他、毎朝、接遇トレーニングを実施している。職員は利用者を一人の人として尊び、敬意を払って接し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、ご利用者と関わる事によって、一人ひとりの思いや希望を汲み取ると共に、様々な場面で、本人が自己決定が出来るような問いかけも行っています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々その人らしく生活していただけるよう無理な対応は行わず出来るだけペースを崩されることのないよう支援しています。一人ひとりの思いを大切に楽しく笑顔で過ごしていただけるよう支援しています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動散発車の訪問を依頼し、外出時には何時もとちがった装い、薄化粧、髪型を整えるなど、おしゃれを楽しんでいます。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食事の盛り付けはご利用者主体となり行っています。軽い汚れ物などはご利用者にお任せしています。ご家族との交流会などでは、利用者と職員とで、食材を購入し、料理をしてご家族にも振舞っています。	昼食と夕食は法人の配食を利用し、事業所では朝食づくりとご飯を炊いている。利用者は下膳やテーブル拭きなどできることをしている。家族との交流会やクリスマス会、1月の七草がゆ、誕生日のケーキのトッピング、ホットケーキなど利用者と職員と一緒に作り、食べることが楽しめるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の記録をとり、特に水分補給はこまめに行っています。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけや個々の状態に合わせた支援を行っています。口腔ケア用品についても定期的に清掃・取換えを行っています。義歯も定期的に洗浄剤を使用し清潔に保っています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導を行い、記録、状態把握、情報共有を行い、適切な誘導時間など検討し実施しています。	バイタル記録表で一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に水分補給やテnder食、腹部マッサージ、体操を行っています。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	早出遅出の勤務シフトをあてて導入し、利用者の生活時間に合った対応をしています。	入浴は隔日の13時30分から17時まで可能で、入浴中に歌を歌ったり、職員と会話するなど、入浴がゆっくり楽しめるように支援している。入浴したくない人には、職員が交代したり、声かけに工夫して支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動の保障という基本を押さえつつ、年齢や体調など、個別的な対応も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報を共有し、服薬援助の方法・程度も共通化を図り、病状観察・医師への報告を行っています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯など、日常の家事についても、一人ひとりの役割が持てるよう配慮しています。	テレビ視聴(水戸黄門、相撲、歌番組)新聞を読む、ぬり絵、習字、クリスマスや正月飾り、しめ縄づくり、歌、テレビ体操、口腔体操、オセロゲーム、百人一首、トランプ、散歩、買い物、プランターの花への水やり、居室の掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみなど楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、利用者が張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣に公園やショッピングモールなど恵まれた環境を活かして、ちょっと遠出の散歩など、介護の現場は地域全体としています。	近所の公園への散歩やショッピングモール、ドラッグストアでの買い物、家族の協力を得ての外出や外食など戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、入居者預り金取り扱い規定に基づいて管理していますが、買い物の際には、ご自身がお支払いできるように支援しています。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	12月は年賀状をご家族宛に書いていただきました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	10時にはドリップコーヒーの香り、毎食事はご飯や味噌汁の炊ける匂い。朝の掃除機の音等五感に働きかけるよう工夫しています	玄関に入るとすぐにリビングとなっており、大きなガラス窓から自然の光が差し込んで、明るい空間となっている。目の前に公園があり、木々の緑や公園で遊ぶ親子連れの姿を眺めることができる。テレビ、椅子、ソファが配置しており、キッチンからコーヒーの香りやご飯を炊く匂いがしている。温度、湿度、換気、音などに配慮して利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆっくり過ごしたり、日向ぼっこをしたり、仲の良いご利用者同士でくつろげるようリビングの席は利用者間の相性を考慮して決めています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に、利用者の馴染みの物を置いていただき居心地良く暮らせるよう配慮しています。また本人の希望があれば、ご家族に連絡し願いが叶えられるようにも支援しています。	小タンス、ベッド、ソファ、テレビ、テーブルなどが持ち込んであり、自分の作品や家族の写真、書の額、賞状、ぬいぐるみなどを飾って、居心地よく暮らせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室前にはネームプレートやメッセージを書き自分の部屋と判るよう配慮しています。あまり広すぎない構造が、大きな事故のない要因のようでもあります。		

2. 目標達成計画

事業所名 ハートハウス新山口グループホーム

作成日：平成 25年 4月 25日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域との付き合いを構築する	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流する	<事業所と地域とのつきあい> ・地域行事を把握する ・地域との関わりの検討をする	1年間
2	4	外部評価、自己評価を有効に活用する	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいく	<外部評価、自己評価> ・全職員での評価や取り組みを行う ・評価の意義や評価項目の理解をすすめる ・評価を活かす取り組みを行う	1年間
3	5	運営推進会議のメンバーが拡大する	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしていく	<運営推進会議> ・地域メンバーの拡大を進める	1年間
4	35	事故防止・発生時の備えを充分に行う	転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけていく	<事故防止・発生時の備え> ・全職員を対象にした応急処置や初期対応の定期的な訓練を実施する	1年間
5	36	災害時の地域との協力体制の構築をする	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いていく	<災害対策> ・地域との協力体制を構築する	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。